

【東京国立博物館】（計10件）

<絵画>（2件）

1 名称	牡丹花肖柏像（ぼたんかしょうはくぞう）	品 質	絹本着色
作 者 等	尾形光琳（1658～1716）筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	98. 8cm×44. 3cm
作品概要	掛幅装。連歌師である肖柏（1443～1527）の姿と、永正7年（1510）に後柏原天皇（ごかしわばらてんのう）が催した月見の宴で肖柏が詠んだ句「空にをきて見ん世や幾世秋の月」が記されている。落款は光琳のみで法橋がないため、元禄14年（1701）2月（44歳）の法橋叙任以前の作とみえる。また箱書の記載からすると、久我通誠が大納言だった天和4年（1684）～宝永6年（1709）と、竹内惟庸が従三位だった天和3年（1683）～元禄14年（1701）の重なる時期の10月10日の制作と考えられる。法橋前のため元禄13年（1700）以前。光琳初期の数少ない作例として貴重である。		
購入金額	34, 100, 000円		



2 名称	松図屏風（まつずびょうぶ）	品 質	紙本着色
作 者 等	対青軒印	員 数	8曲1隻
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	137. 7cm×345. 4cm
作品概要	屏風装。引手跡があることから、元は襖であったと考えられる。一切の背景をなくし、細かい金の切箔を画面一面にしきつめて、大小の松だけをリズムカルに配置する。具象的な松を描きながら、色と形と面で響きあうことで、宗達作品の特徴ともいえる装飾的リズムを生み出している。「対青軒」印は宗達が使用した印章で、「源氏物語関屋滞標図屏風」（静嘉堂文庫美術館蔵）、「関屋図屏風」（当館蔵）、「牛図」（頂妙寺）等に使用例がある。		
購入金額	6, 000, 000円		



＜彫刻＞（1件）

3 名称	地藏菩薩立像（じぞうぼさつりゅうぞう）	品 質	木造、彩色・截金、玉眼
作 者 等		員 数	1軀
時 代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	本体 像高49.8cm ； 台座 高20.3cm
作品概要	円頂。髪際をあらわす。白毫相、三道相をあらわす。内衣、覆肩衣、袈裟をまとい、裙を着ける。内衣は左胸から右脇腹にかけてあらわす。覆肩衣は背面から右肩にかかり右腕を覆って内外に垂らす。袈裟は左肩を覆って右肩に少しかかって正面をわたり、左胸で背面から紐および環で吊り、衣端は左手外側に垂らす。裙は腹部に上端をのぞかせて腰紐で結ぶ。胸飾を付ける。左腕は肘を曲げて掌を上に向け宝珠を持ち、右腕は垂下して錫杖を執る。左足をやや前に踏み出して立つ。 頭体幹部は袈裟の後襟から裙裾にかけて針葉樹二材を前後に矧ぎ寄せ、前面材のみ内割りを施す。前面材は両足柄に至る。三道下で割首する。面部を割矧いで内割りを施し、玉眼を嵌入する。両肩から先、両手首先、両足先半ばに各別材を矧ぐ。別材製の胸飾りを釘打ちして固定する。 本体の表面には黒漆塗りに白土を重ねて下地とし、全身に彩色を施す。着衣部のうち、内衣、覆肩衣、袈裟、裙には截金文様を施す。宝珠は木製。錫杖の頭は銅製鍍金、柄は木製。 台座は木製で、蓮台、敷茄子、華盤、受座、反花、上框、下框の七重とする。蓮台には彩色および截金を施し、他は漆箔仕上げとする。		
購入金額	165,000,000円		



＜陶磁＞（2件）

4 名称	色絵山水図大皿（いろえさんすいずおおざら）	品 質	磁製
作 者 等	高柳快堂（1824～1909）画 香蘭社	員 数	1枚
時 代	明治11年（1878）	寸 法 等	高10.5cm 口径63.0cm 高台径35.0cm
作品概要	磁胎。型成形。径が60センチを超す大皿。染付で下絵付けを施し、透明釉を掛けて高火度で焼成したのち、上絵付けを施し低火度で再度焼成する。見込み部の上絵付けでは、一度クリーム色の絵具で全体を塗りつくしたのち、黒色の絵具で濃淡をつけ、水墨画風の色調で山水と建物、人物が描きこまれる。一部、人物や建物に薄い色絵具で彩色がされる。口縁は、青、赤、金で装飾的に縁取られる。見込み上部の漢詩文から、作画は明治11年（1878）（戊寅）の高柳快堂によるもので、底面の銘から製作は香蘭社によるものであることがわかる。		
購入金額	5,500,000円		



5 名称	色絵山水図大瓶（いろえさんすいずたいへい）	品 質	磁製
作 者 等	高柳快堂（1824～1909）画 香蘭社	員 数	1口
時 代	明治14年（1881）	寸 法 等	高78.0cm 口径24.0cm 高台径21.0cm
作品概要	磁胎。ろくろ成形。透明釉を掛けて高火度で焼成したのち、上絵付けを施し低火度で再度焼成する。側面は灰色がかった白色の絵具で全体を塗りつくしたのち、黒色の絵具で濃淡をつけ、水墨画風の色調で雪景山水と建物、人物が描きこまれる。一部、人物や建物に薄い色絵具で彩色がされる。口縁と裾部は、青、緑、金で装飾される。肩部の銘文から作画は明治14年（1881）（辛巳）の高柳快堂によるもので、底面の銘から製作は香蘭社によるものであることがわかる。		
購入金額	5,500,000円		



＜染織＞（1件）

6 名称	淡紅地経織芭蕉衣装 （うすべにじたてじまばしろういしょう）	品 質	芭蕉、絹
作 者 等		員 数	1領
時 代	第二尚氏時代・19世紀	寸 法 等	身丈124.0cm 衿57.5cm
作品概要	芭蕉衣とは、糸芭蕉の幹から繊維をとり、糸を績み、平織にした琉球独特の織物でできた衣装である。この芭蕉衣は、芭蕉糸を先染にして織り出した煮綴芭蕉布の衣装である。経糸にやや太めの芭蕉糸、緯糸には極めて細い芭蕉糸を用い、経糸の組み合わせが異なる2種類の経織を織り出している。経織に用いられる糸は、紺の織は芭蕉糸であるが、その他の白、淡黄、浅葱の織は絹糸を染めて織り出したものである。それを筒袖にし、脇に三角形の襷をつけて仕立てた琉球仕立となっている。淡い紅地に経織を織り出した芭蕉布の衣装は、他にJ. フロントリテイリング史料館、九州国立博物館、沖縄県立博物館・美術館などに所蔵されるが、ことに那覇市歴史博物館が所蔵する同種の芭蕉衣は、琉球王家である尚氏が用いた衣装として知られる。本品も、琉球王朝の貴族女性が用いた衣装と考えられる。		
購入金額	6,000,000円		



＜考古＞（1件）

7 名称	[重要美術品]外縁付鈕式銅鐸 (がいえんつきちゆうしきどうたく)	品 質	青銅製
作 者 等	伝徳島県美馬市脇町出土	員 数	1個
時 代	縄生時代（中期）・前2～前1世紀	寸 法 等	総高31.7cm 最大幅19.2cm 重量1,711g
作品概要	銅鐸はベル状の青銅祭器で、内部に棒状の舌を垂下し揺り動かすことで鳴らしたと考えられている。楕円筒形で中空である身の上部に、半環状の吊り手である鈕がつく。銅鐸の変遷は文様帯の拡張と鈕の機能的退化を参考に推定されており、本例は、鈕がやや薄手に退化し、鈕の外縁と身の側方に一連の文様帯を付加するようになる外縁付鈕式の銅鐸である。身や鈕は鋳型陰刻に由来する幾何学文様で飾られ、身を斜格子文帯で四区に区画する文様は四区袈裟禪文と呼ばれる。内区に連続渦文を配する特徴も珍しいものである。		
購入金額	22,000,000円		



＜東洋絵画＞（1件）

8 名称	観無量寿経变相断片 (かんむりょうじゆきょうへんそうだんぺん)	品 質	絹本彩色
作 者 等		員 数	1面
時 代	唐時代・7～10世紀	寸 法 等	高20.5cm 幅11.6cm
作品概要	本作品は観無量寿経变相の一部分で、韋提希夫人が宝池を観想する宝池段、楼閣を観想する宝楼閣段の一部であったと考えられる。璽良耶舍訳『観無量寿経』の構成は、本経が説かれることになった経緯（未生怨）、観想するための13種類の方法（前十三観）、往生するための9種類の方法（九品往生）からなる。観無量寿経变相は『観無量寿経』に基づき、極楽浄土の景観、本経が説かれることになった経緯、観想するための13種類の方法、往生するための9種類の方法をそれぞれ未生怨図、前十三観図、九品往生図として表したものである。この図像は中国で成立し、中国の敦煌や日本にも伝播し、それらの地域で独自に展開したされる。		
購入金額	10,000,000円		



＜東洋彫刻＞（1件）

9 名称	如来像頭部（によらいぞうとうぶ）	品 質	塑造彩色
作 者 等		員 数	1個
時 代	唐時代・8～9世紀	寸 法 等	高24cm 幅22cm 奥行15cm
作品概要	如来像の背面は製作されておらず、土も樹脂で固められ、石膏で固定されている。おそらく採集当初、この如来像頭部は仏龕内壁中央に貼りつけられていたと考えられる。 大正元年（1912）当時、如来像頭部には肉髻が残っていたが、昭和38年（1963）の「シルクロード美術」の時点では肉髻が失われており、今日に至っている。顔面は白く塗られていたが、両眉、両眼の瞳、口髭、顎鬚を墨で、唇を朱で表す。左眼の下脛に墨が垂れている。		
購入金額	19, 000, 000円		



＜東洋染織＞（1件）

10 名称	藍地人物文様更紗（あいじじんぶつもんようさらさ）	品 質	平織（木綿）、木版蠟防染・媒染
作 者 等		員 数	1枚
時 代	14世紀後半	寸 法 等	長さ514. 7cm 幅96. 5cm
作品概要	白の木綿地に、木版を駆使し染め上げた更紗で5mの完形を保つ。両端には鋸歯文や円文等の幾何学文を配し、中央には3人1組の女性像と「ハムサ」と呼ばれる2羽の鷺鳥、天蓋を繰り返し染めている。中央部分はおそらく縦49cm、横41. 5cmの木版を用い、茜の媒染と、藍の蠟防染により染色したものと考えられる。本作は放射性炭素年代測定により14世紀後半から15世紀初頭の製作と推定されており、やや横を向き、鋭くとがった鼻、輪郭から突き出た眼をもつ人物像は同時期に描かれた北西インド絵画の様式に類似する。		
購入金額	5, 500, 000円		

